

此は... (Vertical handwritten notes on the right margin)

副官

第六驅逐隊

昭和二年四月二十三日

第六驅逐隊司令今泉美啓

人事局

軍務局

法務

1332

代 海軍大臣岡田啓介 敬

左記者 船名 仁川小月尾島燈臺ノ南六十度西千

六百米 船名 水高野忠次ハ公用使ヲ命セリ午前八時

出船二機兵古館宗一郎ハ機關積清水請求ノ為メ陸上

二派遣 午前十一時定期ヲ出船共ニ午後三時三

十分陸發ノ定期ヲ帰艦ノ途中定期トシテ使用セシ

内火式機械附メシ波浪ノ為メ浸水極力浸水防止ノ努メ

タル小月尾島燈臺ノ南六十度西千三百三十米ノ地點附

近迅鯨破泊シ同艦有舷々梯ヨリ数間ノ處附圖參照ニ於

法務局
2. 5. 7
接 受

軍務局
2. 5. 5
日

2
5
2

艇長名
...

1333

テ遂ニ艇内ニ満水午後四時沈没同時行衛不明トセリ
 當日ハ半艇陸上散步ヲ許可シ居リ短艇ノ都合上午後四時
 陸發テ帰艦スヘキ者ト午後五時陸發テ帰艦スヘキ者ト
 分ナリガ午後三時五分頃ニ上陸員仁川模橋附近ニ相當
 帰末ニ居リシヲ以テ艇長一水五十嵐作次郎ハ此等ノ兵員ヲ
 乗セ(艇員共總乗艇員十三名)午後三時四十分仁川模橋
 テ離テ帰艦ノ途ニ就ケリ

仁川内港航行中ハ海上平穩ニテ何等異状ヲ認めサリシモ
 小月尾島燈臺ヲ過ギ約三百米位航行セ頃ヨリ波浪飛沫
 艇首ヨリ艇内ニ打テ込ニ艇尾於テ約二三寸ノ浸水ヲ見ルニ至
 リリ當時天候ハ朝来ノ雨止ニテ曇風潮共増加シ風力四
 潮流ハ漲潮流ノ最盛時ニテ約二節半風向西ニ潮流ト風
 向トハ約九十度ノ交角ヲシ波浪三帰艦スルニ逆潮ニ右舷

艇中ニ在リシ
 軍醫中尉ハ
 給養ニシテ
 海防艇ニ出
 上ニ在リシ
 ト認シ艇中
 引込シテハ
 ト申出見セ
 艇中ハ大木ナ
 トリトテ艇中
 振ケルヨリレ
 テテテテテ
 同ナリ

(55)

引風ヲ受ケテ、アリキ當航行ヲ續行セシ浸水約四五寸ト
 ナリ波浪ノ飛沫ミテハ浸水ノ量過多ナルヲ感シ、~~船~~栓ヲ檢シ先
 ニ眞状ヲ認メテ附近ニ破泊中迅鯨ニ近寄り時ハ已ニ艇坐附
 近ヲ浸水シタルヲ以テ艇長ハ危險ト認メ迅鯨ノ右舷ヲ梯ニ
 横附シ救助ヲ求メトシ轉舵セシ際艇尾艇側ヨリ波浪ノ一
 撃ヲ被リ艇内ニ満水艇員其儘沈没セシヲ以テ艇乗艇員
 二十三名ハ海上ニ浮流シ大部ハ迅鯨ノ汽艇ニ救助セラレ其
 他迅鯨ノ艇梯及艇尾索梯ニ泳ギ着キシ者並ニ桐ギグニ救
 助セラレタル兩人ハ行衛不明トセリ
 直ニ聯合艦隊各艦ノ援助ヲ得、機動艇カヅメイ等ヲ
 附近海面並ニ沿岸ヲ搜索及掃海ヲ行ヒ又飛行機數架留
 氣球等ヲ搜索ニ努力メ尚又地方官憲ノ助力ニ依リ四月十
 三日迄百方搜索ニ努力シタルニ遂ニ見當メ唯ゾ「ダグ」ニ壊

備アリシ内火式機軸及鎖銷索ヲ揚收セシナリ

當時潮流ハ前記ノ如ク最強時ニテ約二節半アリ

兩人ハ水泳未熟ナリシト及遭難ニ因條ニ機兵鈴木秀

吉及艇長五十嵐作次郎ガ兩人ノ苦悶シ海中ニ沈下セ

テ實見セシ事實等據リ察スルニ兩人ハ溺死トモト認メ

四月二十日附溺死ト認定ス

記

二等水兵 高野忠次

二等機関兵 古館宗一郎

附圖一葉添

(機)

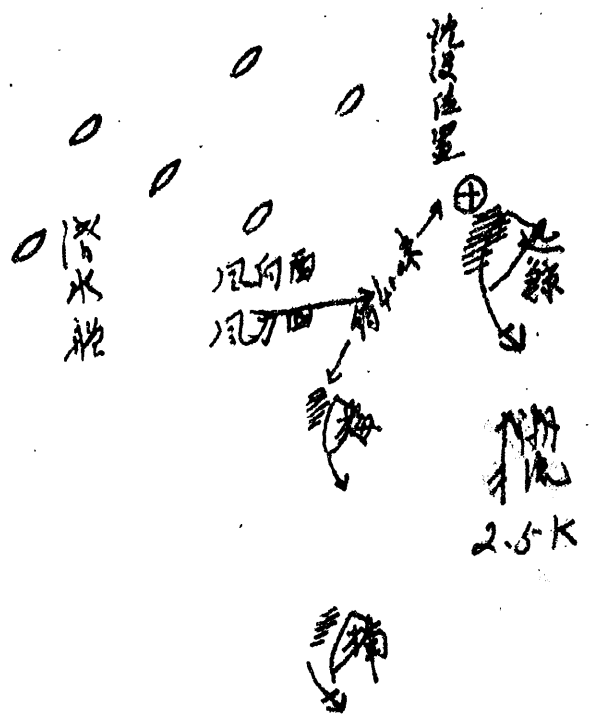
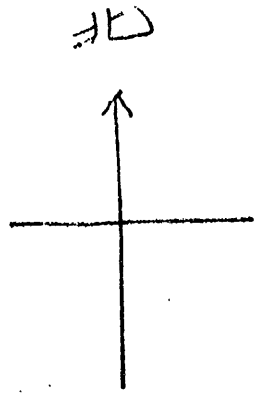
1336



附圖
 沈没位置並附近船舫
 卜ノ園係位置

松島

1337



備覽

政務次官

参奥官

軍務局

1338

昭和二年五月二日

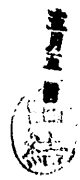
海軍大臣殿

山城艦長



五月五日

官房受



善行表彰、件
記、對別紙寫、通善行表彰

右報居又

海軍一等機長 荻原卯吉

別紙添

海軍



5.5

軍務

寫

1339

善行表彰

横濱機務四。六號海軍一等機関兵。秋原卯吉

右者至誠奉公ノ念篤ク職務ニ精勵シ情誼殊ニ

厚キ良兵ナリ 幼少ニシテ實父ヲ亡ヒ其ノ後實父入

營スルニ至リ農事從テ家人ノ手甚タ薄ラキタル際近

隣リ親切ナル助力ヲ蒙リ爾來報恩同情ノ念時

々腦裏ヨリ離レス

曩ニ大正十五年 四月七日東京時事新報ニ貧困ナル

家庭カ病魔ノ爲ニ益々悲惨ナル境遇ニ陥リツアル記

事ヲ見ルヤ痛ク之ニ同情シ老母ヲ慰ムク毎月送付スル

金圓ノ一部ヲ割キ同情ノ信書ト共ニ匿名贈呈セリ

昭和三年二月二十二日偶々東京日日新聞紙上ニ孝子

ニテ而モ優等生タル少年カ父失職ノ爲一家ノ生計ヲ立

毎 頁

テントシテ子供ノ出来心ニモ竊盜ヲ犯スニ至リ悲哀
 記事ヲ見憐愷惜ク能ハス次回允許上陸ハ際早
 速薄給中ヨリ貯蓄セテ貯金ヨリ金貳圓ヲ割キ又次
 同様ニ横濱警察署宛宛匿名送付シ毎月一回宛
 例セル活動写真見物ヲモ中セリ

右ノ事實ハ贈呈ヲ受ケタル孝子ヨリ本職範已カ犯
 タル罪ヲ悔ヒ再度過誤ナク眞人間タラシコトヲ誓言ヒ併
 セテ感謝方ヲ依頼シ來ル信書基キ分隊長ヲシテ調
 査セシメタルニ事實相違無之醇風良俗ヲ助長スル
 事多クナリ

依テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和二年 五月二日

山城艦長 寺島 健

海軍省

副官

〇ノ二九

昭和二年五月七日

若宮艦長森繁ニ



海軍大臣岡田啓介殿

森繁長

局員

高知縣安藝郡田野町二一七三番地

海軍二等機關兵須藤勝露

右者大正十五年六月二十二日日本艦乗組以來品行方正ニシテ
實直克ク工業員トシテ勤務ニ精勵シ艦内工業能力ノ向上
ニ努カシツ、アリシモ裝備モ工業機械ノ僅少ナルト工具其他
ノ設備ニ缺クル所多キヲ以テ常ニ之ガ對策ニ腐心シツ、アリキ
然ルニ偶々昨年十二月賜暇歸省ニ際シ原籍地居住ノ
實兄須藤鐵工場方ニ至リ小型古金剛砥一個ノ放置シアルヲ

1341

官房受
五月九日

發見スルヤ意ヲ通ジテ之ヲ譲リ受ケ本年一月工具用高速度
鋼材料若干ト共ニ携ヘテ歸艦シ爾末許可ヲ得テ自ラ
設計工作ニ當リ遂ニ本年四月二十日完全ナル自在研磨機
一台ヲ設置スルニ至レリ、

爲ニ從來長時間ヲ要シタル工具ノ研磨ヲ初メ之ニ關聯セ
幾多ノ作業ヲ助ケ大ニ艦内工作能力ノ増進ヲ來セリ、
按ズルニ現下賦政緊縮ノ秋ニ當リ艦船修理費節約

ヲ高調シテ一般修理ヲ可及的艦内工業ニ委ネントスル今日本
艦裝備ノ工業機械ハ僅ニ英式六呎旋盤一台アルノミニシテ
且各部ノ衰朽甚シク修理個所頻發ス現狀ニ於テハ到底
此等ノ要求ニ應ズル能ハス此機ニ於テ自ラ工夫シ本機械ヲ
新設セシハ誠ニ機宜ニ適セ處置ニシテ本艦工業能力増進
上大ニカタク效スモノナリ、

右ノ行爲ハ私事ヲ忘レ日夜公務ノ遂行ニ萬全ヲ期セン
トスル軍人精神ノ發露ニシテ衆人ノ模範トスルニ足ルモノ
ト認ム。

依テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス。
右報告ス

(終)

人事局長

第一課長

局員

吳港第

二

號

七八

五月二日

善行表彰

吳港水第七八號海軍一等水兵小倉治郎吉

右者第一上陸場見張當番トシテ勤務中昭和二年四月十日午
 前一時頃前夜第二艇艇団場内ニ避泊中、吳海軍工廠汽
 艇勇職工野上傳四郎ガ汽艇ヨリ海中ニ墜落將ニ溺レントス
 ルヲ知ルヤ風雨ヲ冒シテ直ニ現場ニ馳セ付テ該汽艇ニ乗リ
 タルニ風波高ク艇、動搖激シク動トモスレハ海中ニ没セシト
 スル状態ナルヲ以テ同所ニ避泊中、特務艦朝日汽艇勇中家二
 機兵ト協カシ百難ヲ排シ幸フシテ救助ニ得タリ

右ノ事實ハ吳軍港衛兵司令吉田喜一、善行通牒註本
 人、口述ニ因リ明ニシテ其、勇敢機宜ニ適シタル行為ハ軍
 人精神、發露ニシテ衆人、模範トシテ推賞ニ足ルモノ

1344

人事局



ト認ム仍テ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和二年五月二日

吳海軍港務部長 松植道二

洋 頁

第一課長

副官

右員

海

官房受

常磐第一三號

昭和二年五月十一日

常磐艦長 百太郎

常磐艦長印

海軍大臣 阿部啓介 殿

善行者表彰一件

海軍二等主計兵曹 澤清 二對スル善行表

表彰一件 別紙一通

右報告ス

(別紙一葉添)

終



1346

善行表彰

福岡縣大牟田市中英町五番地

海軍二等主計兵曹 清

右者昭和二年五月一日允許上陸祇園所須佐
 神社裏山附近散策中午後四時頃當時來佐中
 一東京市下谷區日暮里町一四三番地伊藤
 兼吉(三十六平)カ飲酒泥酔シ前記裏山頂上、山道ニ
 テ顛倒急傾斜部、樹木ニ引掛リ右額部ニ負
 傷悲鳴ヲ上ケ救ヲ求ル聲ヲ聞キ直チニ現場ニ至
 テ付ケ危険ヲモ顧ミス同人ヲ救上テ負傷部ニ應急
 手当ヲ施シ同所居合ハ口タル佐世保海軍航空隊
 海軍三等機關長中條崎義男及歩兵第四十六聯

隊歩兵一率率高田謹一ト協力シ更ニ負傷部ヲ加
療シ且醉狂暴行ヲナシトスルヲ懇切ニ保護シ市内
松川町巡查派出所ニ連行引渡シタリ

右事實ハ佐世保憲兵分隊長並同警察署長
ヨリ通牒及本人ノ陳述ニ依リ明カナリ其ノ行爲
ハ義侠的精神ノ發露ニシテ極敏極宜ニ適シ衆人
ノ模範トスヘキモノト認ム

依テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和二年五月十一日

常磐艦長



第一五〇

昭和二年五月十七日

長門艦長長谷川



海軍大臣岡田 啓介殿

善行褒表 彰ノ件

恩水第九七八海軍三等水兵 横山 睦

右ノ者ハ昭和二年五月山形縣南村山郡金井
村ニ郷里ニ賜暇歸省中同村出身ノ戦友本
艦乗組ニ等水兵半田宗一方ニテ父ノ死去
ニ遭ヒ之カ爲ニ折柄農繁期ヲトテイタク家
業ノ運ヒタリシヲ見傍視スルニ忍ヒス自ラ運友
明ノ夕々ニ鋤ヲトテ田耕ニ助力セリ



海 軍

右ノ事實ハ金井村村長ノ通牒並半田宗
 一ノ口述ニヨリテ明カニテ其ノ行爲ハ至純花温情
 軍人精神ノ發露ニ外ラス是教育勸語
 博愛衆ニ及ホレトノ御聖旨ニカチモムシテ衆人模
 範トスルニ足ル
 仍テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス
 右報告ス

(終)

人事局長

又事局

1351

第三十一號

局員

海

軍

昭和二年五月二十四日佐世保

第三十一驅逐隊司令神山忠

海軍大臣岡田啓介殿

善行表彰件

左記者ニ對シ別紙通善行表彰致候條

右報告ス

(別紙壹通添)

海軍一等主計兵 杉山太

(終)



驅逐艦橋乗組海軍一等主計兵杉山太

右者允許上陸中下宿九佐世保市小佐世保免三五七番地
 田崎和十方ニ赴キ居タルニ昭和二年五月十七日午後八時
 四十分頃回家前九佐世保市小佐世保免二四〇番地精神
 病者中村和六カ自宅表四疊半、梁木ニ麻繩ヲ以テ
 縊死セトノ報ニヨリ急遽和十ト共ニ現場ニ駆付ケ假死
 状態ニ陥ル和六ヲ靜ニ抱キ却シ僅ニ身体ニ温ミアルニ縊
 ノ希望ヲ懷キ機ヲ逸セス人工呼吸ヲ施シタル結果約
 十分ニシテ辛クシテ蘇生セシメ得タルモ意識無キヲ以テ更
 ニ約四十分人工呼吸ヲ續ケ意識ノ恢復ヲ圖リ醫師ノ
 來診ニ際シソノ治療ヲ容易ナラシメタリ
 加之同家ニ看護者ニ不足セルヲ認メタルニ依リ同人ハ同夜

午前一時頃迄看護シ生命安定スルヲ確カシ同來ヲ立
出テタリ其沈着ニシテ誠意アル努力ヲ機宜ノ處置ニ
對シテハ同人平素ノ篤實勤勉ニ行爲ト相俟テ衆
人ノ等シク讚嘆措ク能ハサル處ナリ

右ノ事實ハ佐世保警務署長佐世保憲兵分隊長ノ通
牒渡邊醫師ノ照會並ニ本人ノ陳述ニヨリ明カナリ

當今人心動モスル輕佻浮薄ニ流ルトスル秋ニ當リ本人
ノ行爲ハ軍人精神ヲ遺憾ナク發揮シ衆人ニ活模
範ヲ示シタルモト謂スク又以テ一服ノ清涼劑トスルニ
足ルモノト認ム

仍テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和二年五月二十四日

第二十一驅逐隊司令

洋 眞

副官

金剛

五三

昭和二年六月一日 伊勢湾

金剛艦長

海軍大臣殿

善行者表彰ノ件

左記ノ者ニ對シ別紙ノ通善行表彰致候

右報出課長

局員

藤田



金剛乗組 海軍二等水兵 伊能辰一

(別紙係)

(終)

1354

海軍



善行表彰

海軍二等水兵 伊熊辰一

右者昭和二年五月郷里静岡縣濱松市淺田町七番地ニ賜暇歸省中同月十八日午前三時頃市内板屋町ニ火災起リ十二戸ヲ焼失シタル際警鐘ヲ聞クヤ直ニ約二千米ヲ距ル現場ニ馳付ケタルニ同地ハ道路狹隘ニシテ且多数ノ見物人アリ消防隊ノ活動意ノ如クナラス殊ニ放水手ハ困惑ノ状態ニアルヲ見挺身群衆火焔灰燼ノ中ヲ潜リテ屋上ニ放水手ヲ誘導シ尚全身消防水ヲ浴ヒテ放水目標トナリ献身の消火ニ盡カセリ

其勇敢ニシテ機宜ニ適ヒタル行動ハ消防隊及ヒ之ヲ目撃セル群衆ニ多大ノ感動ヲ與ヘ地方新聞紙

海軍

上ニ掲載賞賛セラレタリ

尚本人ハ前記歸省中母校タル濱松市南小學校

ニ於テ南支那巡航中状況ヲ全校職員一般ニ講

演シ其他博物學上ノ標本數種ヲ土産トシテ寄贈セリ

又大正十五年八月及昭和二年一月休暇歸省中貧窮

ナル同僚ノ家庭ニ痛ク同情シ僅少ナル俸給ノ一部ヲ

割キテ五円及三円ヲ贈リテ之ヲ慰メタリ

右ノ事實ハ濱松憲兵分隊長浦標及本人ノ口述ニ據

リ明カナリ本人ハ平素資性厚^温勤務精勵ニシテ其ノ

行為ハ全ク至純ナル温情ト軍人精神ノ^露披露ニシテ帝

國海軍ノ醇風良俗ヲ助長セルハ衆人ノ模範トスルニ

足ルモノト認ム

仍テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和二年六月一日

金剛艦長松下元

海軍

昭和二年六月一日

副官

人事局長
藤田

第一課長
光

局員
海

横田

田結



五潜隊

第一五

五月二十六日

昭和二年五月五日

第五潜水隊司令
水隊司令印

海軍大臣殿

善行者表彰件下

海軍三等機関兵曹 長谷川左右平

海軍一等水兵 渡邊八重治

同 渡邊廣佐

右者對し別紙寫通り善行者表彰致候条

右報告ス

別紙一通添

終

1358

昭和二年井紙

善行表彰

呂號第三潜水艦乗組

横志機第九二號海軍三等機長谷川左右平

横志機第九九號海軍一等水兵渡邊八重治

横志機第九三號海軍一等水兵渡邊廣佐

右者露隊清水港在泊中允許上陸昭和二年

五月二十二日午後三時十分清水市村松八十二番

地農北川三藏方より出火之大混乱中恰と通リ合

セテ三名快力勇敢ニ極大ノ中ニ飛込ニ防火ニ盡力

シ家財道具ノ救出ニ助力シ損傷ヲ輕微トシタル事

清水警察署長、同地青田警察署備隊長ヨリノ

通報謝辞並ニ分隊長ノ調査ニ對スル本人等ノ申告

ニ依リ明ナリ案スルニ三名ノ行爲ハ勇敢極宜ニ適シ

象人ノ模範トスルニ足ルモト認ム依テ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和二年五月二十四日

第五潜水隊司令関 禎

副官

三 馮 八

善行表

彰 六 月 二 三 日 報 告

愛媛縣新居郡泉川村三八一。春雄

第二課長

山天

高真 海軍三等水兵 原 竹 雄

右者愛媛縣新居郡泉川村自宅ニ賜暇歸省

中昭和二年五月十六日午後二時頃歸船途中

新瀨歌ニ至ル際同村甲三九ニ回番地古川冠市

(現役陸軍一等卒)方ヨリ出火セリヲ認メ急遽

現場ニ駆付ケタル處時恰モ家屋ハ既ニ猛火ニ包

ミテ消防手警察官等拱手扼腕施スヘキ術

ナク家人又現金並印鑑取出シノ為ニ半狂亂

ノ如クナリ居ルニモ拘ラス何人モ遂ニ狼狽シツ

ルヲ見同情ノ念禁スル能ハス自己ノ危険ヲモ

顧ミス卒先身ヲ撲シテ猛火中ニ突入シ善ク

文庫局

1361

2.7.1

2.6.23 受接

其ノ目的ヲ達シタリ爲ニ本人ハ右手其他ニ輕微ナル負傷ヲ受クルニ至レリ

右ノ事實ハ前記古川一等卒、中隊長免報告書及第三十二聯隊長ヨリ通知茲本人ハ口述ニヨリ明ニシテ其ノ献身の行為ハ純真ナル軍人精神ノ發露ニシテ衆人ノ模範トスルニ足ルモト認メ茲ニソノ善行ヲ表彰ス

昭和二年六月二十三日

第三十六驅逐隊司令

人事局長

副官

藤田

藤田

1363

人事局

第九課長代

馬員

昭和二年八月一日

北上艦

海軍大臣殿

長官印

善行表彰件

海軍一等樞關兵田丸守

右者對之別紙一通善行表彰致候
右報告ス

(別紙添)

(終)

海軍

善行表彰

海軍一等機関兵 田丸 守

右者昭和二年六月二十四日許上陸之自己、下宿横須賀市坂本町三十二番地ニ在リ之際、午後五時五分頃、警口鐘ヲ聞キ、火災ノ致入町三百六十四番地甲子神俱樂部ニコトヲ確メ、逸早く現場ニ馳ケ付ケ、近隣家屋ノ家具家財ノ搬出ニ努メ、更ニ市内消防組ト協力、献身消防ニ努力セリ。右ノ事實ハ横須賀憲兵分隊長ノ通牒並ニ本人ノ口述ニ依リ明カナリ。

按スルニ右ノ行為ハ軍人精神ノ發露ニシテ、衆人ノ模範トスルニ足ルモノト認め

仍テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和二年七月一日 北上艦長 清言 善高

海軍

入事局

1365

藤田

副官

山城第一四四號

昭和二年七月四日

海軍

官房

官房

官房

山城艦長

海軍大臣殿

善行者表彰ノ件

右記ノ者ニ對シ別紙通善行表彰致候

右報告ノ件

第一課長

局員

横志松第五元虎 薩摩藩 白木澤重平

(終)

昭和二、一、今井納

善行表彰

領志様御事。九〇號 海軍三年被閱兵 白木澤喜平

右者昭和二年四月十八日山城十八號艦水トラス掃除中長
サ約三吋魚條ノ如クモノヲ僅ク認メ長慮措ク能ハス率先特
ニ熱心該部ヲ剝削清拭ニ綿密ニ検査セシ同線條ハ長ク
約七吋ニ及ヘルノミナラス尚附近ニ類似ノ魚條アルヲ發見シ直
ニ重長海軍上等被閱兵曹山田精之助ヲ經テ艦長海軍被閱兵
務少尉水谷利吉ニ概要報告セリ

茲ニ於テ同官等鞠躬協力該トラスノ薄錆ヲ剝脱精査
シ前記魚條ハ全ク亀裂ニシテ尚更ニ八條ノ清蝕アルヲ
發見報告セリ依テ續須賀海軍工廠ニ於テ該部ノ續通
ヲ行ヒシニ亀裂深度約八分一吋ニ達スルヲ確認シ補強修理

必要ヲ認シムルニ至レリ爾後三七號艦内外部掃除ニ際シ特ニ
 周密ナルヨリトシテ掃除ヲ施行シ兩艦共更ニ永固トシテ於テ前記類似
 魚雷數條ヲ發見シ引續キ検査ヲ施行セシニ殆ント總艦ニ三
 七ヲ發見スルニ至レリ

由來艦ニ至テ且不利ノ故障ヲ惹起セテ其ノ危害劇リ知ラサルモ
 本事件ニ對スル前記ノ行為ハ特ニ職務ニ熱心且注意周到ナルニ非
 ラスハ遂ニ看過セシメテ測_レ難ク烟販能_レ之ヲ發見シテ柄根未
 然ニ防止シ得タルト同時ニ將來之カ製作並取扱上注意_ス要_ス起_ル也
 此カラテ是等事本人平素思慮周密ニシテ慎重使員勤務精
 勵旺盛ナル研究心ヲ反映ニシテ艦員ノ範トシテ推賞スルニ足_ル也
 ト認ム依テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス

昭和二年七月四日

山城艦長 寺島 健

金剛

昭和二年七月一日有明湾

海軍大臣殿

金剛艦長

左記 第一善行者表彰
別紙 海員善行表彰
右報告不記

金剛乗組 海軍二等兵曹 神戸架装吉

(伏)

海軍



昭和二、一令并納

海軍二等兵曹神戸袈裟吉

右者大正十三年六月二十日横濱毎朝新聞ニ「半
 身不隨の兩親を養ふ健氣の少年竹串を削り露
 命を繋ぐト題シ横濱市西戸部町池ノ坂市立収容
 所第百三十號居住小川恭造一家ニ關スル記事ヲ
 見テ深ク之ニ同情シ同年八月上旬暑中休暇ノ途
 次同家ヲ訪問シ金五拾圓ヲ惠與シ猶該収容所
 居住ノ貧困者五十名ニ對シ金若干宛ヲ惠與シ歸
 省後ハ郷里村民ニ對シ震災後ノ横濱市民ノ窮乏ヲ
 訴ヘ村長以下ノ同情募金ヲ得テ金品ヲ市當局ヲ經
 テ細民ニ送與セリ

右ノ行為ニ對シ同年九月二十五日軍艦朝日ニ於テ特別

善行章ヲ付與セラレタリ其後本人ハ何等親戚關
 係ナク只一遍ノ新聞記事ニ依リテ知リタル前記小川氏
 一家ニ對スル同情ノ念瞬時モ腦裏ヨリ離レス爾來今
 日ニ至ル三年餘自ラ質實ヲ旨トシ僅少ナル奉給ノ
 中ヨリ毎月金貳圓宛ヲ割キテ同情アル見舞ハテ添
 ハ惠送シ繼續シ來タルモノニテ附近住民ハ稀ニ見ル奇
 特者ナリト常ニ推賞敬意ノ念ヲ拂ヒ特ニ小川氏一家
 ニテハ大恩人ナリト常ニ感涙ニ因ヒツツアリ
 右ノ事實實ハ横濱市長並横濱憲兵分隊長ヨリノ通
 牒及本人ノ口ホニ據リ明カナリ
 本人ハ資性温厚篤實勤務精勵ニシテ嘗テ大正
 四年九月十七日軍艦山城ニ於テ允許上陸ノ際溺者
 アルヲ聞知ニ率先挺身救助ニ從事シ其善行ヲ表

海 軍

海軍

彰セラレシモトアリ今三回ノ小川氏一家ニ對スル行為モ純貞ナル軍人精神ノ發露ニシテ近時動モスレハ温情ノ美德薄ラクノ際斯ル人情美ニ富メル行為ハ眞ニ衆人ノ模範トスルニ足ルモト認ム

仍テ其善行ヲ表彰ス

昭和二年七月一日

副艦長松下元

昭和二、一今井納

第一課長

副官

局員



官房



人事局

1372

機校第一ノ三〇辨ノ二

昭和二年 七月 六日

海軍機軸學校長 清水 得一

海軍大臣 岡田 啓介 殿

善行者ニ關スル件

帶志水第五七三四號

海軍一等水兵 本間 辰五郎

右者ニ對スル善行表彰別紙ノ通

右報告ス

(別紙一葉添)

(終)



海軍

善行表彰

海軍一等水兵 本 間 辰 五 郎

右者昭和二年七月一日允許外出中ノ處二日午前零時過キ勤務所附屬
 船由良川ニ歸船シタルニ間モナク中舞鶴町花本通三丁目女髮結業水
 原キメ徒弟込山定子カ師匠ヨリ平素ノ怠慢ヲ叱責セラレタルヲ悲觀
 シ第二上陸場繰繰ヨリ投身シテ溺死ノ悲鳴ヲ發シタルヲ耳ニスルヤ
 直チニ現場ニ駆付ケ折柄來合セタル軍艦吾妻乗組兵員二名ト共ニ附
 近海面ヲ搜索シ機橋附近ニ溺者アルヲ發見シ直チニ着衣ノ儘飛込ミ
 前記兩名ノ助力ヲ得テ機橋ニ引揚ケ吐水、人工呼吸等ノ應急手當ヲ
 ナシタルモノナリ後、舞鶴要港部病院ニ收容軍醫官ノ手當ニヨ
 リ完全ニ蘇生シ救助ノ目的ヲ達シタリ

右ノ事實ハ本校常直將校及中舞鶴憲兵分隊長ノ報告並本人ノ口述ニ

依リ明カニシテ敏捷且ツ機宜ニ適セル本人ノ止置ハ遂ニ人命ヲ救助
シタルモノユシテ儼ニ衆人ノ標範トスルニ足ルモノト認ム仍テ茲ニ
其ノ誠行ヲ表彰ス

(終)

入事

警備第三六九〇

横濱警校及軍艦吾妻水兵入命救助事件

昭和元年七月八日

海軍大臣岡田啓介殿

海軍大臣岡田啓介殿

海軍横濱警校由原川榮組

一等水兵 本間辰五郎

軍艦 吾妻

一等水兵 金山 信

二等水兵 山下太郎兵衛

本間一等水兵、先許上陸し七月二十日午前零時過歸

磯後間二十日女、悲鳴し聞き甲板上に出るは更に

官房受

七月九日

第二上陸場方面に於て女、悲鳴を聞き直ぐ第二上
 陸場機橋に駆つけ次ぐ来レル金山一等水兵山下二
 等水兵ト共ニ附近海面を捜索中機橋先三四米突つ
 海中に婦女を發見本間一等水兵ハ飛び込之を機橋
 へ引寄せ金山一等水兵山下二等水兵ト協力引上げ吐水
 人工呼吸等ノ應急手當ヲナシ蘇生せしめ舞鶴要
 港部病院當直軍醫官其他に於て手當ラ如ク夕
 此處京都府中舞鶴町花木通三丁目女髪結業
 水原キメ縫身 辺山定子ナル下別明ニ師匠キメノ夫ニ
 引渡シタリ

因ニ殺身者定子ハ七月一日夜師匠キメヨリ怠慢ヲ叱責

公益會社 洋務商會納

1372

セシタルヲ悲觀シ自殺ヲ決意スルモノ如シ
右報告ス

陸軍

副官

海

官房



大泊第六號

昭和二年七月九日

大泊特務艦長



海軍大臣 殿

人事局

善行者有之候者付別紙、如表彰致シ候
右報告ス

(別紙一葉添)

(終)

1378

昭和二年井納

海軍

善行表彰

海軍二等機關兵曹 金子英五郎

右者昭和二年六月二十四日允許上陸中會々午後五時五十分頃横須賀市汐入町三百六十四番地甲子ノ神俱樂部ノ出火ニ會スルヤ逸早く現場ニ馳ケ付ケ近隣家屋ノ家具家財ノ搬出ニ努メ更ニ市内消防組ト協力獻身消火ニ努力シタリ。

右ノ事實ハ横須賀憲兵分隊長ノ通牒並ニ本人ノ口述ニ依リ明ナリ。按スルニ右ノ行為ハ平素陶治セル軍人精神ノ發露ニシテ衆人ノ模範トスルニ足ル依テ茲ニ其ノ善行ヲ表彰ス(六月六日大瀨特務艦長)

昭和二年六月

副官

第五十三號

昭和二年七月八日

第三十驅逐隊司令有地十

海軍大臣岡田啓介殿

善行表彰ノ件

第一課長

第三十驅逐隊司令有地十

右者昭和二年七月八日、自九州薩摩省下宿佐世保市築町五松尾

徳一、歸宅途次、後、艦上、有頃、海軍兵、濱、組、合、佐、世、保、病、院、下、於、

同病院内、瀕、死、狀、中、由、貞、松、三、子、(三、歳)、カ、過、リ、河、津、屋、落、シ、折、斷、漏、

潮、ヲ、子、供、命、將、瀕、死、狀、ヲ、見、見、不、直、ニ、軍、服、信、高、丈、餘、ノ、

岩、壁、ヲ、河、津、屋、飛、込、ニ、是、ヲ、救、助、シ、當、時、子、供、同、僚、二、人、外、通、行、人、ナ、リ、シ、

カ、比、體、依、船、ヲ、付、シ、群、集、中、ノ、人、後、自、廣、分、隊、頭、查、テ、同、市、港、町、

七、二、中、西、カ、七、下、判、明、シ、該、子、供、ヲ、親、元、前、渡、テ、方、核、驗、シ、中、西、某、ヨリ、

1380

國所屬並姓名ヲ懇請セシメテ最テ精進行爲ヲ示シテ漂然群
集中ニ其影ヲ没リテ右ノ佐世保憲兵分隊長並ニ供父中田
貞松ノ通知及本人陳述ニ依テ明白ナリ

右行爲ノ最モ機敏且勇敢ニテ而シテ尊々人命ヲ救助シタニ
係ラス毫モ其功ヲ誇ラズ純真ノ美ヲ發露シタルモミシテ
其平素ノ謹嚴モ行爲ト相俟ツテ衆人感謝措カレ所也其海
軍軍人ニ對ル敬慕ノ念ヲ高潮シタルモ甚大ナリ網モモト白己
功名ヲ爭ヒ世ニ銜シトシテ輕佻浮薄ノ時ニ於テ克ク軍人ノ眞價
ヲ發揮シタモト曰フ可ク好模範トシテ是レ仍テ其善行表彰ス
右報告ス

(終)

海軍